

第51回学習会を、平成26年2月21日(金)19:00~20:00福岡市教育センターにて行いましたので報告いたします。

第51回の内容

講師 重枝一郎先生

生徒指導総合講座のまとめと来年度のビジョンづくり

- 1 生徒指導総合講座
- 2 アクティブラーニング型を積極的に取り入れる
- 3 演習 GWT「誰とでも組める力」の育成
「ムシムシデパート白地図」

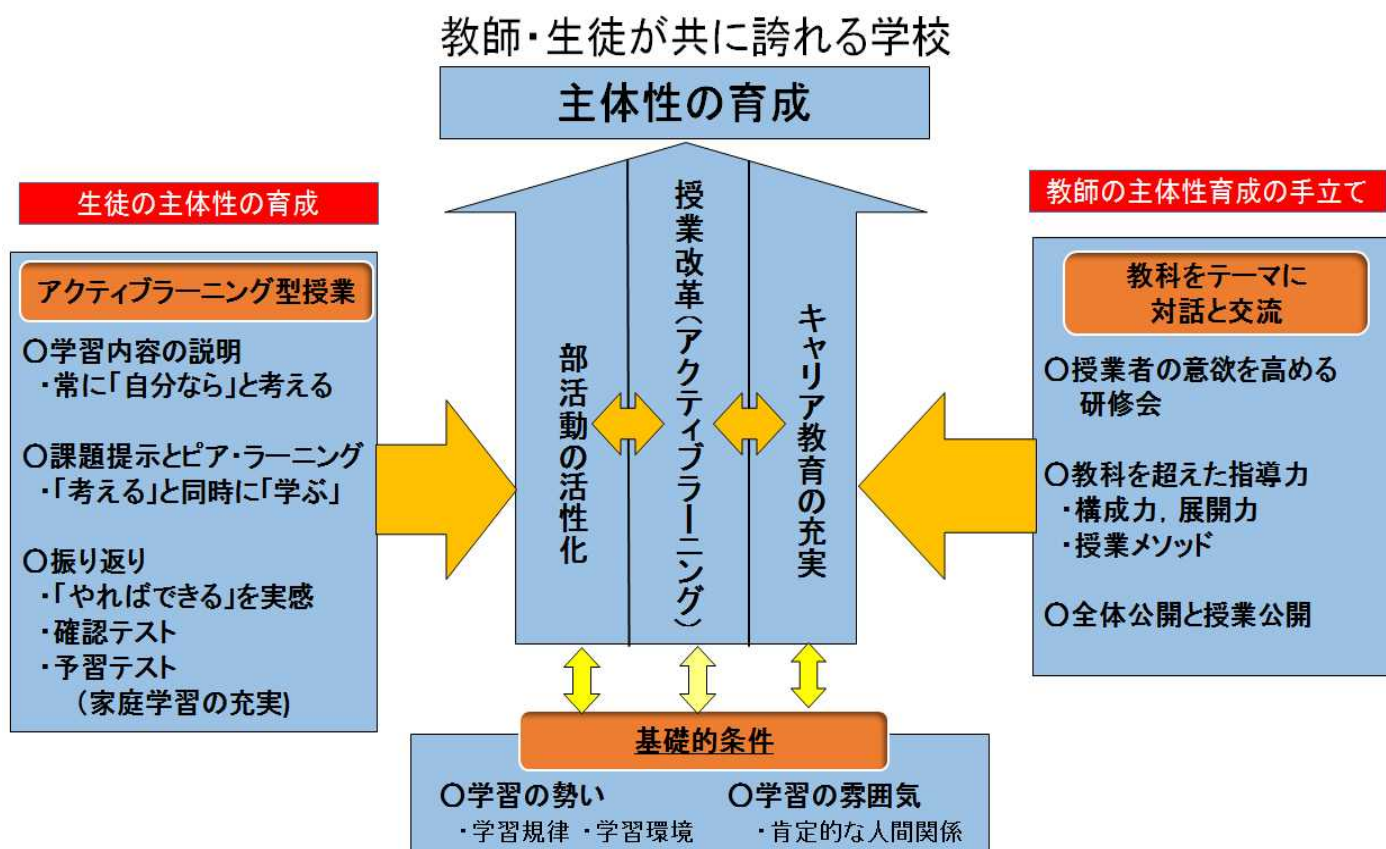


生徒指導総合講座のまとめと来年度のビジョンづくり

1 生徒指導総合講座

学校のすべての教育活動やそれを取りまく事象を関連付ける**大局的な視点**と集団の教育力を高め、それぞれの生徒の個の力を育成する**実践者としての視点**を合わせもつ講座

2 アクティブラーニング型を積極的に取り入れる



アクティブラーニング

- ・発見学習，問題解決学習，体験学習，調査学習
- ・グループワーク等

100%一方通行でない授業はすべて，アクティブラーニングという考え方

ピア・ラーニング

- ・ピア・ラーニングで基礎的条件（学習の勢い，学習の雰囲気）をつくる
ピアは「仲間」という意味。ピア・ラーニングは仲間と学び合うこと。ペアやグループなど学習内容や方法に応じたグループ編成をして学び合う。

授業メソッド

- ・学習環境，見通し，学ぶ姿勢



解説

風土会でこだわっている内容とは

「望ましい人間関係を育てる効果的な集団づくり」学習会としてはじめた「風土会」を，途中で「生徒指導総合講座」と名称を改めました。この、「総合」という部分にこだわっているのが「風土会」です。すべての教育活動を関連付ける大局的な視点で学び合うのが、「風土会」の特徴です。

さらに，こだわっているのが「実践者としての視点」です。風土会で伝えている内容の基盤は，実践です。実際に実践した内容を理論化して伝えているので，説得力のある内容になっていると自負しています。

また，集団づくりにおいては，ただの仲良し集団ではなく，教育力のある集団づくりをしながら，個の育成にこだわっています。教育力のある集団は，包み込まれ感があり安心・安全なので，ありのままの自分を開示し，個性を伸ばすことができます。そのような集団を築き，個々の持ち味を強く意識させ育成する方法や内容を伝えています。このような内容や方法は，教師の暗黙知となっていて言語化されていない傾向にあります。それを言語化し，理論と実践を融合して伝えています。

アクティブラーニングという考え方

小・中学校は義務教育なので，確かな学力を定着させるために教員は，授業改善に取り組んでいます。思考力・判断力・表現力を高めるために，授業に交流場面を位置付け，学び合いをさせています。大学の授業でも，最近では「アクティブラーニング」が取り入れられています。ここでの「アクティブラーニング」とは，発見学習，問題解決学習，体験学習，調査学習，グループワーク等，100%一方通行ではない授業すべてを含みます。

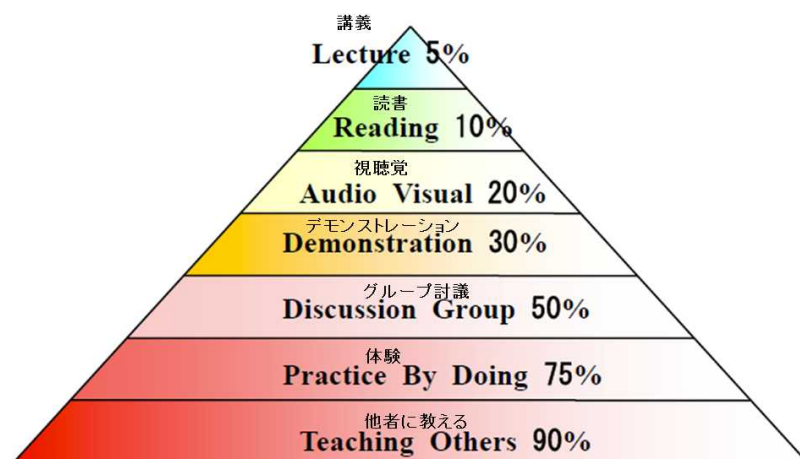
右図は，ラーニングピラミッドという学習定着率を示したものです。他者に教えると90%の学びになることがわかります。

だから，アクティブラーニングが効果的だという裏付けになります。

ただし，児童生徒同士で教え合うための交流活動を活性化するためには，学級集団の状態が大切になります。そこで，福岡市では「Q-U アンケート」を導入し，積極的に学級集団づくりに取り組んでいます。つまり，学級集団づくりは，いじめや不登校の未然防止だけでなく，学力向上にも影響があるのです。

学習定着率「Learning Pyramid」

（出典：National Training Laboratories）



授業の基礎的条件

学習の勢い（学習規律，学習環境）+ 学習の雰囲気（肯定的な人間関係）は，授業の基礎的条件です。教師はまず，基礎的条件にこだわります。チャイム席や忘れ物，話の聴き方や発表の仕方等の学習規律と机の配置，黒板や棚の整理等の学習環境，そして，肯定的な人間関係が築かれているかどうかです。それが，授業内容の定着を左右します。

子どもたちは，教師の指導の在り方に大きく影響されています。例えば，「素直で指示には従うが，主体性がない生徒集団」について，なぜ，主体性や自主性がないのかを考えると，教師は，その原因を生徒の資質等に求めがちです。しかし，教師が指示を出しすぎているのかもしれない。生徒の主体性を育てたいのなら，生徒に主体性をもたせるように仕組んでいく必要があるのです。

「育てたように子は育つ」と言われます。教師の指導の在り方を振り返るためには，自分の授業を公開し，客観的な視点で点検する必要があります。

しゃべる声のトーンや間の取り方，表情など，教師のエンターテインメント性の自己点検をします。そして，生徒の主体性を育てるような授業に変えていきます。

アクティブラーニング型授業

アクティブラーニング型授業は，教師による一方向の講義型授業ではないので，子ども達の主体性を育てることができます。仲間と学び合いをする授業です。

講義型授業と比べて，時間がかかるというデメリットがあると感じるかもしれませんが，子どもも教師も慣れてくれば，時間はかからなくなります。

ここで大切なのは，振り返りです。必ず，どれくらい良かったのか確認テストをします。

MTM（マッチ・トレーニング・マッチ）

サッカーの指導でよくする手法で，選手の意欲を高める方法が，「MTM（マッチ・トレーニング・マッチ）」です。

まず，試合をします。そして，何がうまくいかなかったのかを考えさせます。例えば，パスが繋がらなかったなどの意見が出てきたら，それをトレーニングします。そして，もう一度試合をして，前と比べます。前よりも向上しているという実感がもてたら，それでOKです。

このように，アウトプットする場面をつくると，インプットが強まります。

授業でも同じように，「後で発表してもらいます」「テストをします」など，アウトプットする場面をつくると，強制性が背景にあるにせよインプットが強まります。

アクティブラーニング型授業をするときには，アウトプットする場面とセットにすると効果を上げます。

常に「開発的生徒指導」

開発的生徒指導は，すべての生徒が対象で，授業化できます。「風土会」では，開発的生徒指導につながる内容や方法を伝えています。

予防的生徒指導は，一部の生徒を対象としています。

問題解決的生徒指導は，一般に「生徒指導」と言っている内容で，問題行動の対応です。

アクティブラーニングは，すべての生徒が対象の問題解決型授業であり，開発的生徒指導と捉えることができます。

教師はもともと，聞くことよりも話すことになじんでいる生き物です。説明型授業の方がしっくりくるという先生も多いでしょう。特に若い先生方は，説明が上手にならないと，いきなり問題解決型授業をするのは難しいかもしれません。

しかし，生徒の主体性の育成につながり，思考力・判断力・表現力を高めることができるアクティブラーニングを取り入れた授業改善は，学力向上だけではなく，生徒指導の目的を果たすこともできるのです。それは，社会性の育成であり，集団や社会の一員として自己実現を図っていく大人へと成長させます。

演習 「ムシムシデパート白地図」

「思考を活性化する学習」に馴染ませるために、短い時間でGWT（グループ・ワーク・トレーニング）を行うことをお勧めします。GWTは楽しいので、子どもたちは抵抗感をもたずに「思考」し、交流することができます。

また、交流活動を行う基盤としての「学級集団づくり」としても効果的です。「誰とでも組める力」を育み、「クラスでまとまることへの抵抗感をなくす」ことができます。

このようなGWTを行うときの教師の役割は、何のためにする活動なのかという「目的」を、子どもの心に響くように伝えることです。教科の学習において交流活動を活性化するために行うということ、子ども達とも共有しておきます。また、誰とでも組める力が社会人として求められるということも、熱く語っておきます。このように、GWTの先にある世界を示します。

次に教師がすることは、子ども達の活動の様子を観察して、タイミングよく刺激を入れることです。例えば、交流活動が活発に行われているグループを見つけたら、そのグループがまわりのモデルとなるようによさを認め、全体に意識させます。そうすると、暗黙のルールづくりができます。つまり、教師による強制ではなく、子ども同士の学び合いによる気づきとするのです。また、グレーゾーンの解釈については、先手を打ちます。教師が子ども達にさせたいマナーやルールの機微を浸透させます。

グレーゾーンの小さなマイナス行動を見逃していると、少しずつ崩れていきます。人は易きに流れていくものです。それを、教師による説教ではなく、活動中の子ども姿で確認し、教師は意図的にルールづくりをしていきます。

そして、最後に行う「振り返り」は、とても重要です。ここで、子ども同士の「認め合い活動」を十分行います。そうすると、子ども同士の良好な人間関係が生まれ、支持的風土が浸透します。

このように、GWTによる効果を高めるためには、教師による意図的なリーダーシップが欠かせません。子どもに体験させれば、子どもが自分で学ばだろろうという子ども任せのスタンスでは、教育効果が望めません。教師にとっては、自分のコーチングスキルを高める場としてGWTにチャレンジしてほしいと思います。

「ムシムシデパート白地図」

情報を組み立てるGWT（グループ・ワーク・トレーニング）です。一人一人のもっている情報を組み立て、協力し合って課題を解決する活動を小グループで行います。

情報カードや指示書、振り返りシートは、インターネット上に公開されています。ぜひ、実践して下さい。

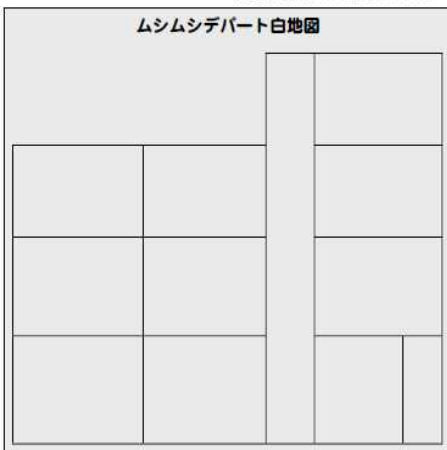
指示書

ある日、アオムシさんは一人でアパートに買い物に来ました。でも、初めてのアパートなので、こまっています。みなさんで、アパートの中の地図を書いてあげてください。やくそく

1. 情報カードをうらにして、トランプのように配ってください。
2. 地図を書くヒントは、すべて情報カードに書いてあります。
3. 人のカードを見たり、見せたりしてはいけません。
4. 全員で助け合い、よく話し合ってください。
5. 地図ができたら、グループ全員で「バザイ！」しましょう。
6. 時間は20分です。

白地図は拡大し、B4判くらいにします。

ムシムシデパート白地図



情報カード 両用紙に印刷し、切り離しておきます

1. 入り口は、右ほしにあり ます。	2. アリさんは何日も前から、 食料品を仕入れて います。	3. しんし服とふじん服の 売り場は、となりどろ しです。																								
4. 楽器売り場では、セミ さんがバイオリンをひ いています。	5. 工具売り場では、クワ ガタさんがノコギリを 売っています。	6. 電気せい品売り場のお くに、クワガタさんが います。																								
7. タマムシさんは、1階 の売り場にあります。	8. 屋上にペットショップ があります。	9. 食料品売り場は、階の おくにあります。																								
10. ムカブさんは、楽器売 り場の真下でくつを 売っています。	11. 1階には、ほう石売 り場があります。	12. チョウさんは、2階で はたらいています。																								
13. 入り口を入ってすぐの 所にメガネ売り場があ ります。	14. ふじん服売り場はエレ ベーターをおりるとす ぐあります。	15. カメムシさんは、売り 場でカメを売っていま す。																								
16. 工具売り場のとな り、電気せい品売 場です。	ムシムシデパート 正答表 <table border="1"> <tr> <td>エ</td> <td>ベット</td> <td>入</td> </tr> <tr> <td>レ</td> <td>カメラムシ</td> <td>口</td> </tr> <tr> <td>ベ</td> <td>楽器</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>セミ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ク</td> <td>くつ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>タ</td> <td>ムカブ</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>メガネ</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>トンボ</td> <td></td> </tr> </table>		エ	ベット	入	レ	カメラムシ	口	ベ	楽器			セミ		ク	くつ		タ	ムカブ			メガネ			トンボ	
エ			ベット	入																						
レ	カメラムシ	口																								
ベ	楽器																									
	セミ																									
ク	くつ																									
タ	ムカブ																									
	メガネ																									
	トンボ																									
19. クワガタさんは、 りのホテルさんと、 おしゃべりします。																										
22. トンボさんの売り 入り口を入ってす ぐです。																										

ふりかえりシート

年 級 グループ名 名前
今のグループ活動を感じ出して書きましょう。

1. 情報を話すときは、どんなことに気をつけるとういですか。

2. 人の情報を聞くときはどんなことに気をつけるとういですか。

3. だれのどんな行動が、よかったですか。

注：このGWT制は、上石澤志氏が日本学校GWT研究会に所属していた数年前に、小学
館・小学校教育技術の読者投稿を受けられたものを、氏の許可を受けて財団法人
（複製づくりネットワーク）がpdf化したものです。

本日のキーワード

アクティブラーニング、ピア・ラーニング、MTM（マッチ・トレーニング・マッチ）
基礎的条件 = 学習の勢い + 学習の雰囲気
開発的生徒指導

学習会に参加された先生方の感想

（参加人数 19名）

- ・ 今日学んだことを、1つでも多くの場面で他者にアウトプットしていきたいと思います。まずは、自分の職場の若い先生方に対して、「ぜひ、やってみたい!」「がんばろう!」とモチベーションを上げてもらえるような伝え方を磨いていきたいと思います。日常的に若い先生方に関わっているので、息の長い取組にしたいと思います。
 - ・ 今、自分の学校で考えている（考えていかなければならない）研修テーマにマッチしていて、とてもとても参考になりました。Teacher's Teacherの本を読み返し、この学習会で学んだことの、どの部分からどんな形で学校の先生方に発信していけばいいのかが、いつも悩んでいます。学んだことのすべてを一気に伝えることは難しく、学校の実践につなげられずにいます。
先日たまたま、MTM（マッチ・トレーニング・マッチ）の形で、教科の授業をしてみました。1回目と2回目のMでの生徒の姿が変化していて、いいなと実感していました。また、やってみようと思います。
 - ・ 学んだことを少しでもアウトプットしていかなければと思います。基礎的条件（教室の環境作り）ができていません。がんばりたいと思います。
 - ・ 体験活動で行った情報カードは、はじめてでしたのでフレッシュな気持ちで取り組みました。また、自分の考えを発信することで自分の考えや実践が整理できるという話を聞き、自分も風土会で学んだことを発信していきたいと思いました。
- （若い先生方に日常的に関わっている先生、校内研修に風土会で学んだことを発信したいと悩んでいる先生、学んだことをアウトプットしたいと思っている先生など、さまざまな立場で風土会での学びを活用していただきありがとうございます。子ども達の成長を実感できるのが、教師の喜びです。そのための発信やアウトプットを躊躇せずに前向きに行っていると、素直な反応がダイレクトに戻ってきます。それをパワーにして、チャレンジして下さい。その結果報告を待っています）
- ・ 今年度は1年間通して、風土会に参加しました。連続して参加したので、学習内容が関連付き、理解が深まりました。今日のお話の中では、「基礎的条件を整える」ことや「教師がどのような暗黙のルールをつくっているかが重要」という部分は、自分だけではなく学校全体で意識していくことが大切だと感じました。いつもためになるお話を本当にありがとうございました。来年度も継続して、学びたいと思います。
 - ・ 「感情は伝染する」という言葉が心に残りました。無意識のうちにイライラした自分の感情が子ども達に伝染していたのではないかと反省しました。表情と私の感情はつながっているなと思い、ハッとしました。「基礎的条件」についてブレない指導を根気強くしていきたいです。
 - ・ 暗黙のルールをプラスの方向でつくることのできない1年間だったなと反省させられます。初めての担任でうまくいかないことばかりでした。「感情は伝染する」来年度の学級開きで、必ず生徒に話そうと思います。生徒を納得させる話をたくさんできるようになりたいと日々思っています。
 - ・ 「生徒の主体性」だけでなく「教師の主体性」が必要だという点が印象的でした（耳が痛いですが・・・）。生徒の意欲を持続させるには「見通しをもつこと」が大切だと納得させられました。グループ活動後の「振り返り」がいつもうまくいかないのが、段階的に取り組んでいきたいです。

（生徒を納得させる話のネタを風土会で仕入れて、アウトプットしてみて下さい。子どもたちの反応がどうだったか教えて下さい）